

# HPVワクチン接種後に多様な 症状を生じた患者への対応 ー 慈恵ペインクリニックー

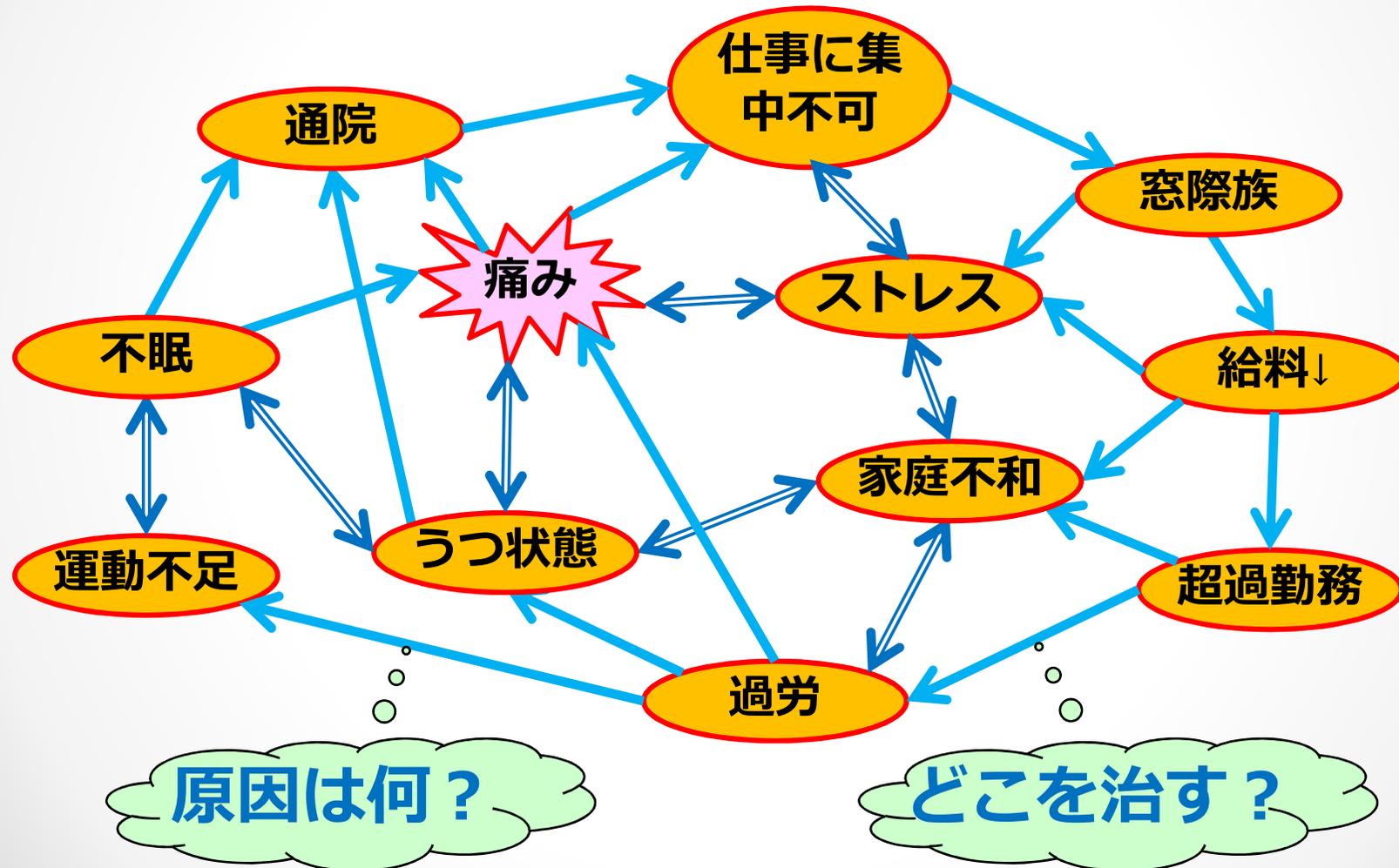
**2016/7/22**  
**@厚労省研修会**

北原雅樹  
東京慈恵会医科大学附属病院  
ペインクリニック

# 慈恵医大ペインクリニック

- 全人的治療を提供
  - 医師（痛み専門医、精神科医）、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、鍼灸師、専任看護師
  - 痛みだけでなく、生活全般への介入
    - 慢性痛は生活習慣病
  - 「病を診ずして病人を診よ」
- 痛みセンター連絡協議会19施設の1つ
  - 欧米では人口約200万人に1施設

# 慢性の痛みの複雑性



- 19歳 女性
- 主訴：頭痛、意識消失発作、記憶力低下
- 現病歴：
  - 15歳5月：HPVワクチン接種
  - 15歳冬（接種後約半年）：陸上の練習中に意識消失、救急搬送。「過呼吸」の診断。頭痛が始まり徐々に悪化。
  - 16歳夏：理数進学コースへ編入。勉強は頑張っていた。
  - 17歳：意識消失発作で病院搬送（過換気の診断）。母親が話しかけても聞こえていない？  
「夢か現実かわからない」

**17歳冬**：起床時頭痛、通学途中で意識消失（月1～2回）、腹痛・気分不快・脱力感

- 脳外、内科などで精査も原因不明。メンタルクリニックで「精神的なもの」

**17歳頃～**：学校を遅刻・欠席が目立つ、単位不足で留年

**初診-18月**：通学途中で意識消失→総合病院救急搬送、精査で脳波異常。「てんかん」疑いで、精査・加療のため同院神経内科入院（3週間）。投薬開始し、発作コントロール良好で退院。

**初診-14月**：進級試験などでストレス↑とともに、毎日数回の意識消失発作。再入院。

**初診-14月**：検査所見は改善。しかし、新たに失声・複視・手足のしびれ/ふるえなどの多彩な症状が出現。「てんかん」の診断に疑いをもち、てんかん専門医療機関に転院。

**初診-13月**：72時間ビデオ脳波検査で「発作」の症状があっても脳波に異常がないことを確認。精神科に転科し「解離性障害」の診断

**初診-1月**：抗てんかん薬などの薬は服用せず、意識消失発作は少なくなった。複視、記憶力低下、頭痛、手足のしびれ/ふるえは不変。

本人・家族がワクチンの影響を心配して当科へ。

- 既往歴 : 問題なし
- 家族歴 : 問題なし
- 常用薬 : ジクロフェナク (頭痛時≒毎日)
- 社会歴 :  
通学時の意識消失が怖いので、母親が付き添って登校、下校は友人とともにand/orタクシー等  
高校では部活はない。運動は一切していない。  
喫煙 (+)、アルコール (?)

- 初診時の主症状：

（当人および家族より）ほぼ毎日起床時から**頭痛**がある。夜間、頭痛で目が覚めることがある。**嘔気・腹痛・霧視**を伴う。3日に1度は**日常生活に支障**をきたすほどひどい。

2～3日に1度、ちょっとしたきっかけで**意識消失発作**がある。倒れて怪我をしたことはない。**記憶**ができない。住所・生年月日・電話番号の**暗誦**ができない。父母の名前はわからない。兄や友人の名前はわかる。食事をとったことを覚えていない。

- 所見

**質問用紙**で：PDAS 10（日常生活ほぼ正常）；  
HADS A11, D 8（不安強い）；PCS 38（ネガティブ思考やや強い）；PSEQ 6（自信がない）

全身の筋力は正常。神経機能に問題ない。ただ、  
下肢の関節が固い。

診察中（1時間以上）も特に言動に問題なく、  
同席した母親とも普通に会話していた。

- 診断

解離性障害、緊張性頭痛、廃用症候群

- 治療方針：認知行動療法的治療（対応）

- 患者・家族への十分な説明と質疑応答
- 薬物療法は原則として行わない
- これ以上の検査は原則として行わない
- リラクゼーションの効果も期待し、簡単な運動療法を指導
- 患者本人の希望を聞くとともに、家族間の対話を促した。

# 経過

## 初診1か月後：

- 日常生活に支障をきたすような頭痛は激減
- 意識消失発作はまだあるが、頻度は激減
- 親族（特に母親）との対話を促す

## 初診2か月後：

- 意識消失発作は1か月間に1回だけ
- 頭痛は軽くなり薬剤も使用していない
- 禁煙中
- 高校卒業可能⇒アメリカに語学留学
  - 家族と話した結果

## 考察等

- 全人的な専門家による対応
  - 医療者側の冷静な対応
  - 患者・家族との十分なコミュニケーション
- 主訴だけにとらわれない
  - 本当に困っていることは何？
  - 慢性疾患の多くは**生活習慣病**
  - **心理社会的因子**に十分配慮する
    - 家庭（学校、職場）環境、運動習慣、生活時間帯（睡眠）、食事内容...

# 診断について

- 何のために診断するのか？
  - 適切な治療を行うため
  - 診断がつかないと対処できないのか？
- 検査・診断はだれのため？
  - 患者さん・家族から希望を奪う？
- 「オッカムの剃刀」 Ockham's razor
  - 「ある事柄を説明するためには、必要以上に多くを仮定するべきでない」
  - 新しい診断名を作るより...